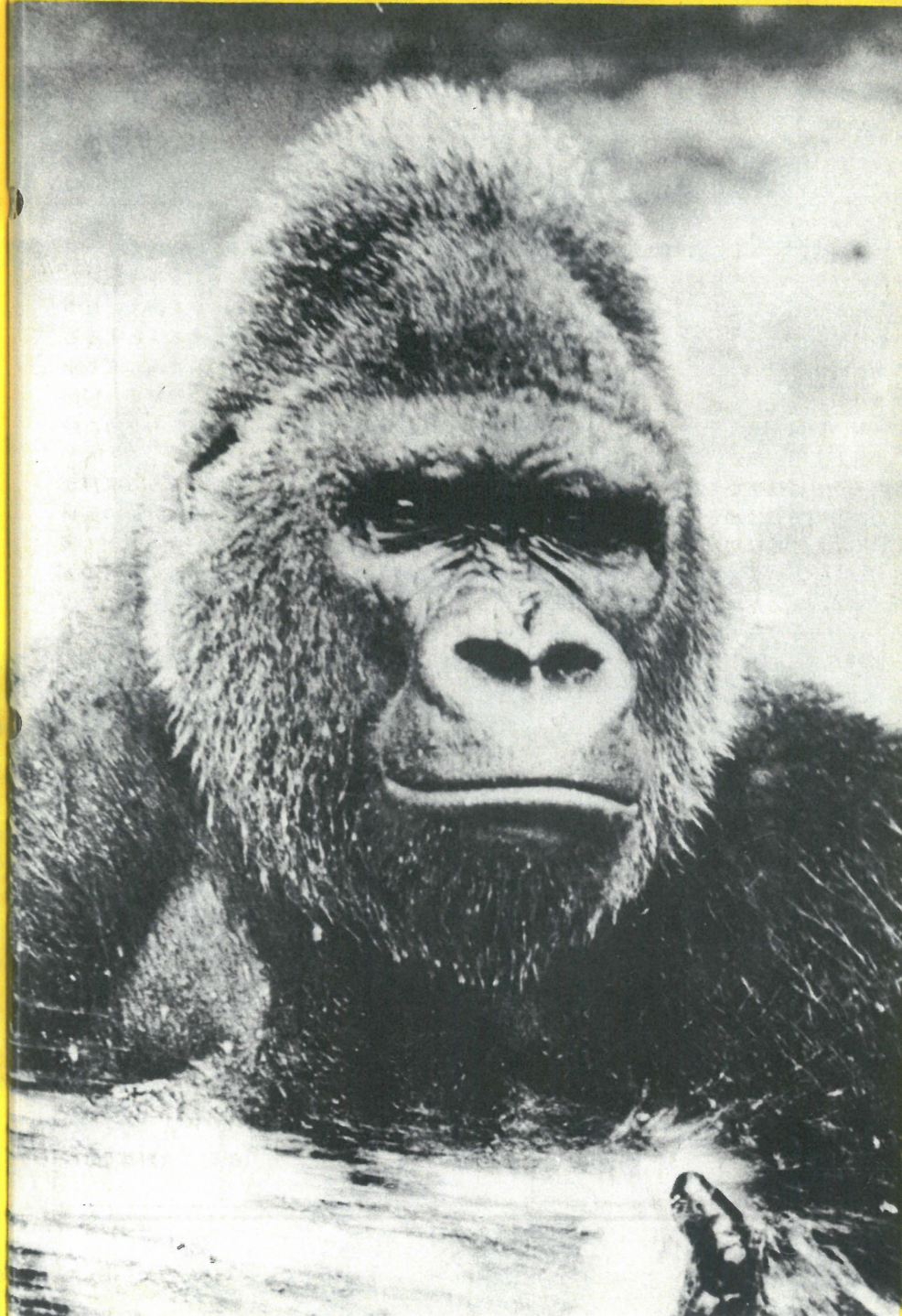


なきごえ



1980

8

大阪市
天王寺動物園協会

正田陽一



研究室の私の机の上に、1個の頭蓋骨が飾ってある。下顎の鋭い犬歯を見て「イノシシですか？」と聞く人も多いけれど、これは20年ほど前、上野動物園の子供動物園に飼われていたタヒチ島のブタ、「ベル」の頭骨なのである。

昭和34年の夏、動物園協会のKさんから電話があった。「商船大の練習船が変ったブタを積んで来たんですが、見に来ませんか」ということで、早速でかけたのがベル君との最初の出会いだった。

中国系のブタだろうという予測に反して、ベルは全身黒色の顔のとがった若い雄豚で、両耳の先が切っており、首の下に一对の肉髯をぶら下げていた。

肉髯のことを俗に風鈴とも呼ぶのでベルの名もそこからつけられたのだろうとは推察できたけれど、ブタでも断耳が行なわれているとは知らなかったし、風鈴をつけたブタというのも、私は初対面で、「どんな素性のブタなんです？」というKさんの質問にも答えられず、私は頭をかかえるだけであった。

翌年、今度はタヒチ豚の雌がやって来たが、これは華南系の中国豚で目新しいものではなかった。ベルはこの花嫁と琴瑟相和し子豚も沢山生まれた。

ベルのルーツを気に懸けながら何の手がかりも無いままに過ぎていた私は、或日ドイツの畜産書の中に首に肉髯のあるブタの写真を見つけた。説明にはイタリア原産のカセルタ種とあった。

タヒチ島はフランス領である。カセルタ種以外にも地中海沿岸種に肉髯を持つものがあるとすれば、その子孫がタヒチ島に残っている可能性は充分考え

られる。私はいつかヨーロッパを旅行する時には是非この目で見て確かめたいものと思った。

昭和44年の夏、私はスペインに1ヶ月ほど滞在し、地中海の保養地マジョルカ島を訪れる機会を持った。この島には古い在来種としてマジョルキーノ種がいる筈であった。私はこれに肉髯があるかどうか確かめたくて、2、3の養豚場を訪ねたが、新しい改良種ばかりが飼われていて、よほど田舎へ行かなければ在来種は見られないだろうということだった。

1日、私はマジョルキーノを探すべく、ショパンとジョルジュ・サンドのロマンスの跡をレンタカーで巡るというお嬢さん達のグループに同乗を申し入れた。

風光明媚な観光の島マジョルカでブタを探すという私の目的は、彼女達の好奇心をいたく刺戟したらしい。一行に加えてもらった上に、車の中から8つの目で黒豚探しを手伝って貰うことになった。

ヴァルデモッサから北へ向う車の中で「アッあれは？」という声に、私は車を飛び下りた。オリーブ畑をうろつく一群のブタはまさにマジョルキーノだった。首の下に風鈴があった。カメラを構えて近づき、私が腰をおとしてシャッターをきろうとするとブタはトコトコと逃げ出して少し離れた所に立ち止る。追いかけてカメラを構えようとまた逃げる。何回かこんなことを繰り返して、やっと写真におさめた時、私は全身汗びしょりになっていた。

車の中からはセニョリータ達の愉快そうな笑声が聞こえていて、私はブタの逃げる姿が彼女達の笑いをさそっているのだとばかり思っていたのだが、実は腰をかがめ夢中でブタを追っている私の恰好の方がもっと滑稽だったということが、夕刻のホテルの食卓で判明した。私のプライドはいささか傷ついたけれど、しかしベルの祖先にゆかりのブタに会えた喜びはそれを償って余りあるものであった。

帰国して数週後、私はKさんからの電話でベルの死を報らされた。ベルに報告に行かなければ...と思っていた矢先のことで、驚きもし残念にも思った。

研究用に頂いたベルの頭骨は今も私の机上にある。そのほこりを拂うことで私の1日は始まる。

(東京大学教授)

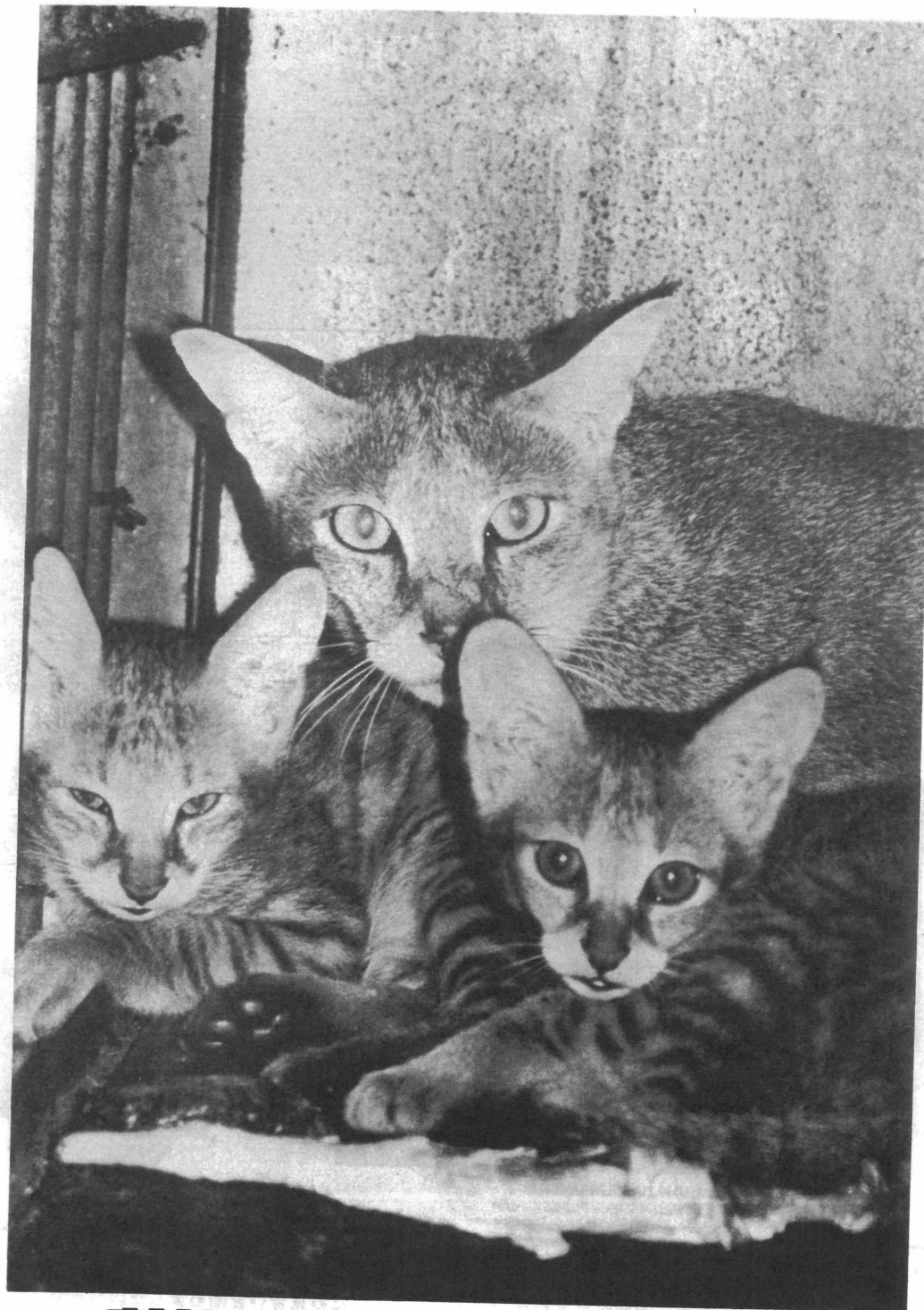
なきごえ8月号もくじ

動物と私	2
“ジャングルキャットの親子”	3
動物園グラフ・動物園日記	4-5
雑技団パンダについて	6-7
タンチョウ記	8-9
キーパーズ・アイ ⑭	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“ローランドゴリラ”
ごきげんな夏をすごすゴロ君
りっぱな顔になりました。

(撮影：大野尊信)



“ジャングルキャットの親子”

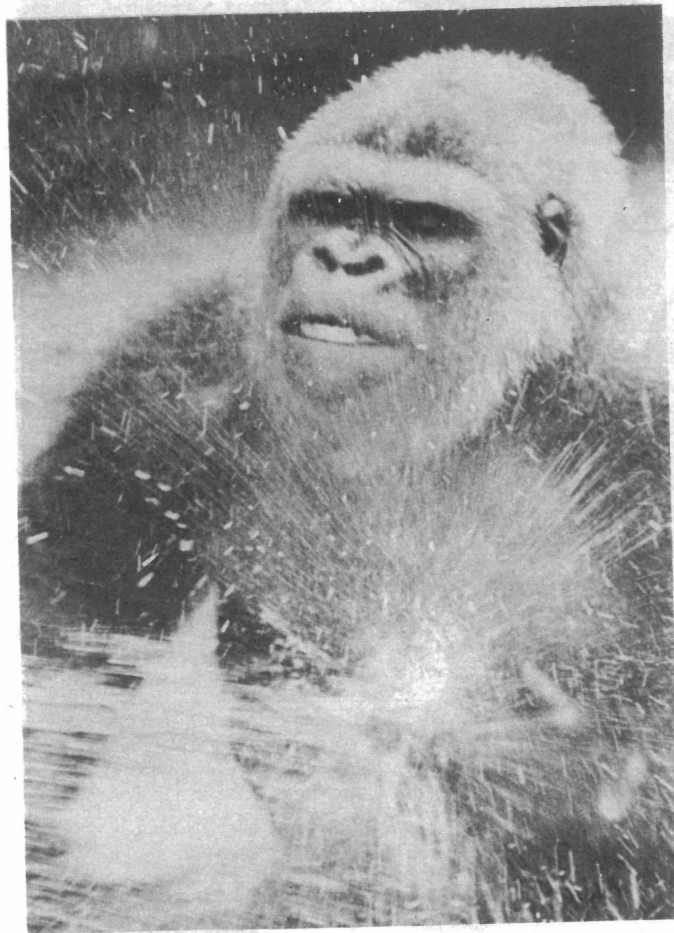
6月12日、ジャングルキャットが3頭生まれました。昭和52年4月にバングラディシュのダッカ動物園より親善動物として贈られて以来、これが5度目のおめでたです。

(撮影：農本武志)

動物園グラフ

“ボクらは夏が大好きです。

だって水遊びができるもん”……今回はゴリラのゴロとラリの水遊び風景を特集してみました。(撮影：大野尊信)



少し冷たいけれど気持ちいいー。



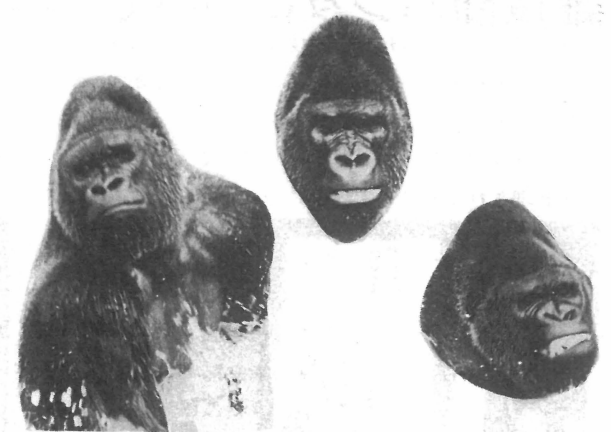
オーイ、カゲンはどうだ。



口中顔だらけ。



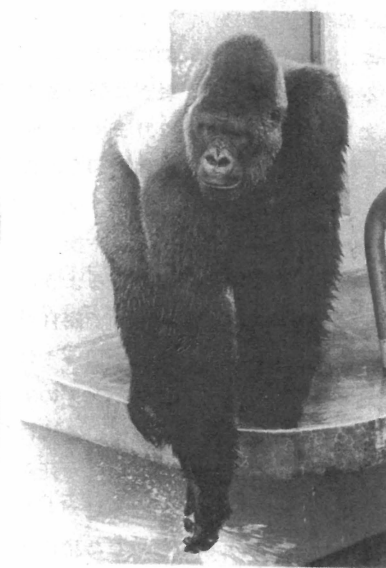
たまらずとびこむラリちゃん。



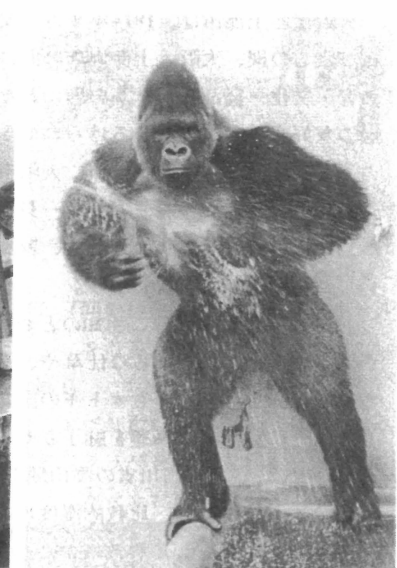
たまらない顔、々、々。



ヘビー級ダンピングはゴロ君。



ちょっぴりやさしく。



ウォータードラミングだぞ！。

6・7月の動物園日記

- 6 / 21. ブラックバックの雄が1頭死亡しました。
- 22. アシカが1頭出産しました。これは本年3頭目です。
- 23. オオクワガタが細菌感染症のため死亡しました。
- 24. ニホンジカの雄が1頭生まれました。
- 25. キングペンギンが産卵しました。

- 6 / 27. ニホンジカの雌が生まれました。先日入園したパタスザルの雌を雄と同居のため見合いを始めました。
- 28. 20日に生まれたニホンザルの母親が子宮内膜炎で死亡したので、仔は人工哺乳に切り変えました。
- 29. 26日に生まれたニホンジカの仔が肛門周囲を過剰に舐められたので手術をしました。
- 7 / 3. インドクジャクが左足を骨折したので治療しました。
- 4. 6月29日に手術したニホンジカの仔は人工

- 5. 本年生まれのベニジュケイの雛が開脚症になったので、矯正固定しました。
- 6. バンが4羽孵化しました。
- 7. ラマ1頭、メンヨウ2頭が出園しました。
- 8. ミナミアメリカオットセイが左肩を咬まれ化膿してきたので治療しました。
- 9. ハナジカの雄が生まれました。
- 10. オオヅルが産卵したので、孵卵器に入れました。
- 11. 長い間入院していたジャングルキャットの雄が死亡しました。

- 11. マレーバクの雛が背中を負傷したので治療しました。
- 13. アカミミガメが産卵しました。
- 14. イエローアナコンダとボアの膿瘍摘出手術をしました。
- 15. ライオンが4頭生まれました。
- 17. カイツブリが死亡しました。
- 18. 2月に右足を骨折したシュバシコウが義足をはめたり治療につとめましたが、死亡しました。
- 20. レアがもう1羽孵化しました。

雑技団パンダについて

雑技団パンダ。いわゆる曲技団に所属するパンダのことであります。中国の数少ないパンダのなかで、有芸パンダは1頭しかおりません。このパンダは、上海市雑技団(曲技団)に所属して、上海市で飼育管理されております。



玉ころがし

大阪市と上海市は、1974年4月に友好都市提携を結び、この間、大阪・上海両市の間には、スポーツ・教育・文化・経済など、多方面にわたるさまざまな形の友好交流が、くりひろげられてきましたが、このたび、上海市雑技団一行が、大阪市にやってくることになり、この受入先遣団の一員として、上海市へ訪問する機会を得ましたので、雑技団パンダについてご紹介をしてみましょう。

パンダは、皆さんもご承知のとおり、その愛らしいふうぼうと、いろいろな仕草や、手を使って食事をする風景は、あたかもオトギの国から飛びだしてきたように、思わず私達を魅了させてくれます。

パンダは、中国・四川省の高山地帯(2,000~3,000m)の竹が密生する、比較的湿度の高い地域に生息しており、世界でも最も数の少ない、代表的な珍獣だといわれております。

このようなことから、中国では、パンダは国の大切な財産として、手厚く保護されており、パンダのプレゼントは、国のレベルで考えられています。日本は中国と友好関係を結ぶ国々のなかで、パンダをプレゼントされた数少ない友好国であります。

パンダは、飼育下では他の動物に比べて、繁殖例の少ない、また、育成のむづかしい動物といわれております。5~6年で成獣となりますが、雌の発情は1年のうち、4~5月の短い期間に限られ、この時期に妊娠しないと、子供は生まれません。子供は成長したパンダの大きさに比べて非常に小さく、体

長約20cm、体重120g 前後の、ネズミ程度の大きさしかありません。繁殖例が少いうえに、環境に適応する性質が弱いために、感冒や消化器病にかかることが多く、飼育下での管理のむづかしい動物といえましょう。



すべり台

さきにも述べましたとおり、パンダは高山地帯の動物でありますので、寒さには、よく耐えますが、暑さに弱い動物であります。一般的には30℃以上になりますと、飼育がむづかしいといわれております。(適温20℃前後)上海市動物園でも、冷房の設備をしておりますが、急激な気温の変化に弱いため、特に通風や換気に格別の注意を払い、できるだけ冷房をさけるようにしているとのこと。

中国で飼育されているパンダは、その殆んどが四川省で捕獲されたものだといわれていますが、数年前、パンダの生息地である四川省で、パンダが主食としている竹に花が咲き、竹が枯れたために、多数のパンダが死んだようであります。天地異変による飼料不足がもたらした結果であります。この情報に接した諸外国のパンダに関心を持つ国やWWF(世界野生生物基金)などから、パンダをこれ以上絶滅させないよう、援助の提案があり、中国はこの提案にこたえて、さらに一層のパンダの保護に力を入れようとしていることは大へん喜ばしい限りであります。

上海訪問の最後の日、約1時間、上海市動物園を見学いたしました。天王寺動物園から上海市動物園に贈りました。キリンやチンパンジーはとても元気しておりました。上海市動物園でも、パンダの気持ちはすばらしく、訪問した日が日曜日であったせいでもあります。パンダ舎(4頭飼育)付近は、多くの観客で賑い、中国の人々もパンダには強い関心を

もっていることをつぶさに見ました。

さて、雑技団パンダの偉偉(ウェイウェイ)君であります。1973年11月、上海市科学映画撮影所が、自然保護をテーマとした映画撮影のために、四川省平武県の王朗自然



偉偉君

動物保護区に赴いたときに、母親パンダと一諸にいた子供パンダを発見、同撮影隊は、パンダの捕獲許可をもらっていましたが、許可頭数が1頭であったために、子供パンダのみを捕獲したそうであります。捕獲されたとき、子供パンダは3~4ヶ月の哺乳期であったために、隊員が苦勞をして、人工補乳に努め、ようやくミルクを飲んだとき、思わず隊員達が偉偉(日本語訳でエライエライ)とほめたたえたため、いつしか名前が偉偉となったようであります。1974年上海市に連れ帰ったのは、上海市雑技団に移管され、飼育係のベテラン張さんの手で育てられましたが、張さんが高令のため、若い陸星奇さんの手にゆだねられ育てられました。

陸さんの暖かい愛情のもとで、十分な訓練を受けた偉偉は、やがて世界でただ1頭の芸のできるパンダとなり、1975年10月、国慶節に初めて芸を披露し、大へんな人気を呼んだそうであります。

偉偉君の食事は、他のパンダ達と同様であります。上海市の発表によりますと、次のとおりであります。(1日量)

○新鮮な竹	4kg
○混合した穀物類	1.5kg
トウモロコシの粉	75%
ふすま	20%
大豆粉	5%

以上を混合し、むしまんじゅうにする。

○サトウキビ	1kg
○全粉乳	100g
○砂糖	150g

○塩	6g
○鶏卵	4個
○リンゴ	2個
○ビスケット	500g
○キャンディ	少々

キャンディは調教の時のオヤツ

偉偉君はもちろん「雄」で、現在8才(数え年)体重は150kgであります。上海市雑技団動物訓練所を訪れましたときは、非常に元気にしており、私達の目で早速立派な芸を披露してくれました。

偉偉君の持ち芸

- ネコぐるま押し(ウバ車を押し)
- 木馬乗り、体を前後にゆする)



木馬のり

- 玉ころがし(仰向けになって、四肢でボールをころがす)
- でんぐり返り
- すべり台(すべり台に乗り、すべる)
- ラッパ吹き(ラッパを口にくわえて、犬に引かせた台車に乗る)



ラッパ吹き

などで、いずれも楽しいものばかりであります。来年早々来阪の予定であります。

以上。
(飼育課長 土井良彦)

タンチョウ記

——天王寺動物園におけるその歴史と繁殖記録——

§はじめに

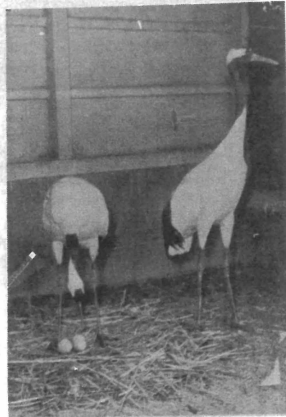
ツルの仲間には世界に14種いますが、いずれもその数は減少傾向にあり、なかでもアメリカシロヅルやソデグロヅルのように絶滅の危機に瀕しているものもあります。タンチョウも一時は数がかなり少なくなり心配されましたが、根釧原野の湿原で周年生息するタンチョウが少しずつ繁殖数をふやし、一筋の光明を見だしています。ただ生息できる保護地域が限られているため、ある程度までしか増加は見込めないでしょうし、湿原の開発が進めばトキやコウノトリの二の舞にもなりかねないでしょう。日本では昭和14年、天然記念物に、昭和27年には特別天然記念物に指定されており、国際的にも特殊鳥類、国際保護動物として貴重な鳥の扱いを受けています。昭和27年には北海道に30羽しかいなかったのが、現在300羽近くまで増えてきたことは、特別天然記念物の指定もさることながら、地元の保護団体の努力の賜物でしょう。1979年1月現在で世界の21の動物園、繁殖センター等で114羽のタンチョウが飼育されています。その内、日本では9ヶ所で52羽飼育されています。

タンチョウは古来より日本では親しまれてきた鳥ですが、日本以外にもシベリア東南部、中国東北部などに繁殖地があります。学名は *Grus japonensis* と日本の鶴というような名をいただいています。日本だけの鳥でもないわけですが、そのせいか英名も Japanese Crane と Manchurian Crane の2通りが使われていましたが、最近、Red Crowned Crane という名称を用いてはという案がだされています。

§タンチョウの歴史

戦前の動物台帳が戦災で焼失しているため、大正4年の開園時にタンチョウが飼育されていたかどうかは不明ですが、手元に残る資料によれば、大正11年1月17日に時の財閥住友家より7羽のタンチョウが寄贈された記録があります。

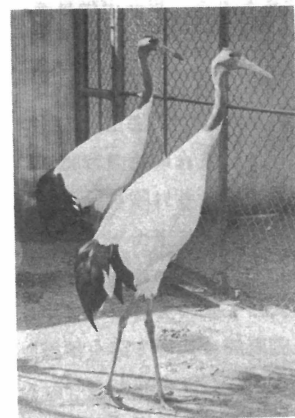
ですからこの日を当園のタンチョウの飼育開始日とすることにしましょう。この7羽のタンチョウは雌雄の性比は不明ですが、昭和8年から昭和13年まで6年連続して13羽のヒナがふ化、育成した記録を残しています。特に昭和11年には6月4日から4日間連続で4羽ふ化したという記録も



戦前のタンチョウのペア

あり、当初の7羽は二番以上の繁殖ペアから成り立っていることが想像できると思います。相つゞ繁殖に昭和15年頃は17羽のタンチョウを擁するまでに至ったのですが、第二次世界大戦の激化に伴う爆撃の影響などから次々に死亡し、戦争終結時には6羽しか残存しませんでした。しかしこれら6羽も食糧難時代のため十分な餌が得られず、昭和23年3月までに全て死んでしまいました。

戦後の新しい歴史の始まりは、昭和24年3月3日に1番いのタンチョウが入園した時からでしょう。このペアは仲が良く、入園当時から2年間ほどは産卵したらしいのですが、1羽のヒナも誕生しませんでした。このメスは昭和27年以降は産卵せずじまいで、昭和46年10月に死亡しました。(22年7ヶ月飼育)その後、国内ではタンチョウを入手することは困難なため、オス1羽だけで鶴舎の一角で飼育されていました。昭和49年、日中国交回復を祝し北京動物園と親善動物交換を行うことになりました。その際、当園からはアカカンガル、ルリコンゴウインコを贈り、北京動物園からは熱望していたタンチョウのメスと中国以外では世界で初めて飼育展示されるという珍しいカモシカ、モウコガゼルが贈られて



夫婦仲は順調(手前メス)

来ました。贈られて来たメスはまだヒナの面影を残す茶色の羽毛が混じっており、年令1才と推定されました。こんな若い花嫁と当園の年老いた？(当時25年飼育)オスが果してうまくペアを組んでくれるのか心配でしたが、夫婦仲はすこぶる順調で、昭和51年に初の繁殖に成功以来、今年までに5年連続、9羽の繁殖に成功し、現在11羽と日本の動物園では1番の、世界でも北京動物園につぐ収容数を誇るまでに到りました。それにしてもこのように繁殖成績のよいメスを当園に花嫁として贈ってくださった北京動物園には深く感謝する次第です。

§繁殖と成長

戦前の記録が詳細なものがないだけに、育成したヒナの数も13羽と分っても、産卵数、ふ化数などについては皆目分りません。おそらく13羽以上のヒナがかえり、それ以上の卵が産卵されたものと思われ

繁殖の記録

No.	産卵日	ふ化日	性別
	S. 51. 5. 25	破卵	
1	5. 28	6. 30	♀
2	S. 52. 5. 27	6. 28	♂
3	5. 30	6. 30	♂
4	S. 53. 5. 13	6. 15	♀
5	5. 16	6. 16	♀
6	S. 54. 5. 1	6. 3	♂
7	5. 4	6. 4	♀
8	S. 55. 4. 22	5. 25	?
9	4. 25	5. 28	?

ます。昭和51年以降の繁殖した個体は表のとおりで、初めて産んだ卵が破卵した以外は全てふ化し、かつ全て順調に育成しました。100%の有精率、100%のふ化率、そして100%の育成率とどれをとってもすばらしい記録です。繁殖した9羽の産卵日は表の



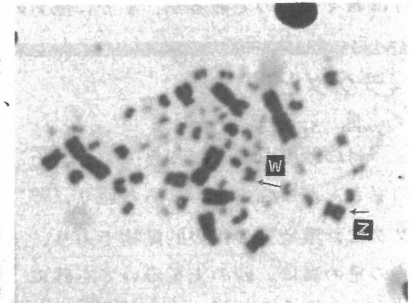
5年連続繁殖に成功

ように4月22日～5月30日の間で、年々産卵が早くなっています。この調子でいくと来年は4月15日頃に産卵するのではないかと考えられます。ふ化日も31～33日で平均32.2日でふ化しています。ふ化後2日目ぐらいから巣からよちよち出て歩きますが、ほとんどは巣上で寝ています。その後は日ごとに行動範囲を広げ動きも活発になってきます。1ヶ月をすぎると茶褐色だけだった羽毛に白い羽毛が混じりだし、2ヶ月目には綿毛のような羽毛はほとんど抜け落ち、3ヶ月目にはツルらしい体つきになって頭、首に茶褐色の羽毛が残る以外は全体に白っぽい羽毛へと変わっていきます。8ヶ月で成鳥の大きくなり、1年ではまだ頭頂が黄味がちの橙色、2年で体は純白に近くなりますが、わずかに薄茶色の羽毛が残ります。

3年で頭頂も赤色となり成鳥に達するようです。昭和52年からは2羽ずつふ化しているのですが、1番目のヒナがふ化して2番目のヒナがふ化するまでの間隔は1～3日、この前後して生まれてくる2羽のヒナは、ふ化後1週間以内は時に大げんかを行います。といっても先にふ化して体の大きい方が一方的に勝つのですが、後にふ化したヒナを追いかけまわし、嘴で突くやら、くわえて引き倒すやら、上のりかかって押しつぶしたりと、見ている方はかなりはらはらさせられます。このヒナのすさまじい闘争に両親は全く無関心ですが、そんな大げんかを一度すませると後はもう仲がいいものです。

§性別鑑定

タンチョウのオス、メスの見分け方は、成鳥になればオスの方がメスより首も多少太く、体格も少し大きいので、異性のものを2羽そろえてみると、判別できます。又、鳴声でも、オスとメスが向かいあって共に鳴く時、オスが一声鳴く間にメスがあいの手のように二声低く鳴くので区別できます。しかし体の大きさも個体差がありますし、常に鳴くわけでもなく外見だけから雌雄の判別をすることは困難です。現在、タンチョウに限らず外見上、雌雄不明の鳥類に関しては染色体による性別鑑定が最も確実です。当園でもこの方法で性別を鑑定しており、今年生まれの2羽はまだ行ってませんが、残り7羽の性別は全て染色体によって判定しました。



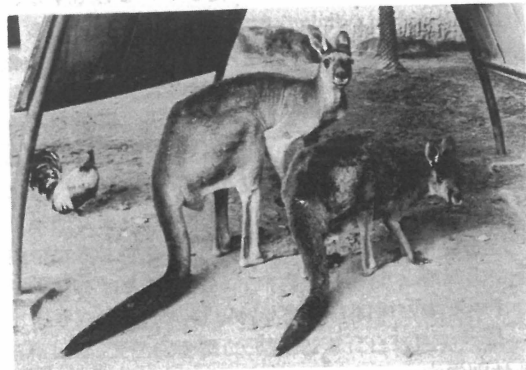
北京から贈られたタンチョウの染色体ZWの性染色体を有する。

§おわりに

繁殖ペアのオスに老令化のきざしが見えてきているだけに、早くⅡ世の中から格好のペアが形成されることが望まれます。いくつかの繁殖ペアができれば、その繁殖したヒナを動物園で収容する以外に、再び野生の地に戻すことも可能でしょう。そんな日が来るのを楽しみにしながら、染色体標本作りに励む今日この頃です。

(飼育課獣医師：宮下 実)

《Expo・カンガルー》



’70大阪万国博開催を記念して、はるばるオーストラリア政府より寄贈された、グレート・グレー・カンガルーの一家も、あれやこれやで、2頭を残すのみとなってしまった。最盛期には、7頭もの大所帯を抱え、飼育関係者一同、嬉しい悲鳴をあげていた時期もあったにはあったのだが……。さて、残された2頭は、♂のサムソンと♀のリンダで、帳尻上はいちおう番になっており聞こえは良いのであるが、サムソン君はさておき、リンダの方は、名前だけは若々しいのであるが、すでに色気のカケラすら

《ラクダと砂》

“月の砂漠をはるばると……”と、幼少の頃に口ずさんだ童謡の文句にある通り、ラクダは砂漠地帯の代表的動物であり、その足の裏は、砂の上を歩いても砂に肢がめり込まない様、カンジキのようになっていて。うちのラクダは長い間、山土を敷きつめた運動場を歩き回っていたせいか、どうやら肢にガタがきたようだ。歩くのは勿論、立ち上がるのさえオックウに見える。元来が砂の上を歩く動物なので、砂を敷きつめてやればいいのだが、建設当初から山土を敷きつめていたのであった。そこで、今年の春先より、運動場全体に砂を敷きつめてやる事にした。仕事の合い間を見つけては、ひたすら時間の許す限り、



遠い昔に忘れ去った様なロートル・カンガルーである。いかな精力的なサムソン君とて、年増カンガルー相手では、繁殖意欲が湧かないのもうなずける話、若い♀カンガルーと一緒に飼えば、繁殖意欲もムラムラと湧き、頭数も増えると思うのであるが……。そんな由で上司に、「若くて色気のムンムンする、ピチピチした♀のグレーカンガルーを、2~3頭入れてやって欲しい！」と、嘆願したのであるが色よい返事は返ってこなかった。何でも、原産地オーストラリアでは、カンガルーの国外への輸出を禁止しているらしく、原産地オーストラリアからの輸入は、特別な場合をのぞいて期待出来ないらしい。又、国内のトレードに於いても、相手の思惑がからんだりして一向にはかどらない状態である。オーストラリアからの輸入はさっぱり期待出来ず、国内の動物トレードもままならぬとあっては、せっかくのエクスポ・カンガルーの一家も、滅亡に陥いる大ピンチなのであるが……。

(葭谷 文彦)

砂を入れてやったのである……。ラクダという動物、元来があまり愛想のない動物である。普通なら砂を入れてもらった手前、砂の上でころげ回るとか、走り回って、喜びを体一杯に表わすとか、愛嬌の1つも行なうのであるが、ラクダという動物、そういう落ち着きのない、ジタバタした動作はしない。落ち着き払って、至極当然といった面構えでこちらを眺めるから、やりにくい。しかしながら、月日もたち、季節も変わって、ラクダの肢も悪くはなっていない様だから、ラクダ一家も“口には出さねど胸の内”、きっと喜んでくれていると思うのだが……。

(葭谷 文彦)

動物園ニュース

§ 出産シーズン続く。

6月22日、カリフォルニアアシカに3頭目の赤ん坊が産まれました。1年に3頭の赤ん坊が生まれたのは昭和50年以来5年振りですので係員一同、喜びもひとしおです。この子も前に産まれた2頭同様、大変元気で生まれた1週間後にはお母さんと一緒に

大変上手に泳げるようになりました。御来園の際にはこの可愛いチビツトリオを是非御覧下さい。



6月26日

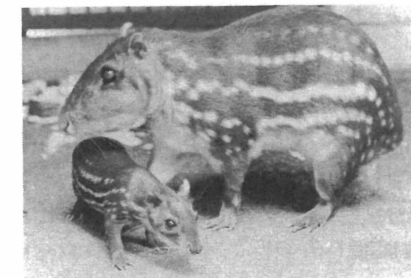
にニホンジカにまた1頭雌の子が生まれました。しかし、他の個体がこの子を可愛がりすぎ、なめすぎた為、とうとう肛門部に大きな穴が開き、このままでは大変危険な状態になってしまいました。そこで動物病院に入院させ、獣医さんによって手術が行われ



れました。結果は大成功で、獣医

この方もうまく行っています。

7月25日、パカに赤ん坊がうまれました。パカは天王寺以外では秋田の大森山動物園に最近1番が入園しただけという大変珍しい動物です。父親は8年前に入園したもので、母親は昨年入園しました。同居させた初めは大変折り合いが悪く、メスは背中に大ケガをし、今年1月やっと同居に成功した位でしたのでまさか繁殖するとは思ってもしなかったので担当者も驚いたり喜んだり。親も可愛い動物なの



ですが、さすがに子供は親より一層の可愛らしさがあります。御来園の際にはアシカの赤ちゃん同様このパカ

の赤ちゃんも是非御覧下さい。

§ 第6回サマースクール開講

7月22日

から7月31日まで、小



くらしを彩るショッピング



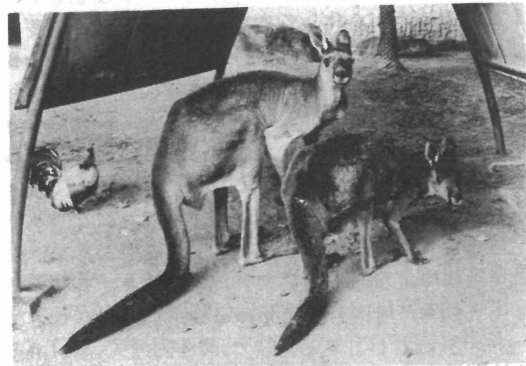
近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

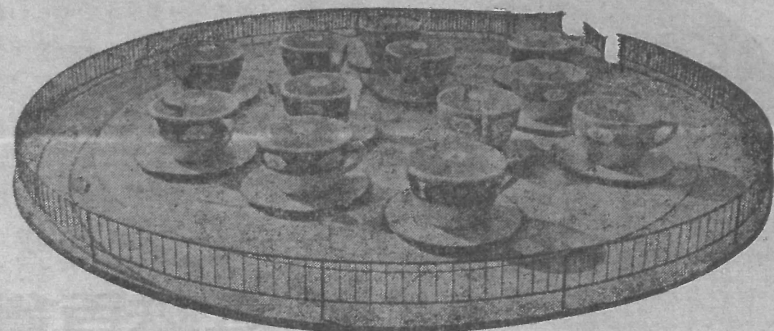
《Expo・カンガルー》



'70大阪万国博開催を記念して、はるばるオーストラリア政府より寄贈された、グレート・グレー・カンガルーの一家も、あれやこれやで、2頭を残すのみとなってしまった。最盛期には、7頭もの大所帯を抱え、飼育関係者一同、嬉しい悲鳴をあげていた時期もあったにはあったのだが……。さて、残された2頭は、♂のサムソンと♀のリンダで、帳尻上はいちおう番になっており聞こえは良いのである

遠い昔に忘れ去った様なロートル・カンガルーである。いかな精力的なサムソン君とて、年増カンガルー相手では、繁殖意欲が湧かないのもうなずける話、若い♀カンガルーと一緒に飼えば、繁殖意欲もムラムラと湧き、頭数も増えると思うのであるが……。そんな由で上司に、「若くて色気のムンムンする、ピチピチした♀のグレーカンガルーを、2〜3頭入れてやって欲しい！」と、嘆願したのであるが色よい返事は返ってこなかった。何でも、原産地オーストラリアでは、カンガルーの国外への輸出を禁止しているらしく、原産地オーストラリアからの輸入は、特別な場合をのぞいて期待出来ないらしい。又、国内のトレードに於いても、相手の思惑がからんだりして一向にはかどらない状態である。オーストラリアからの輸入はさっぱり期待出来ず、国内の動物トレードもままならぬとあっては、せっかくのエクスポ・カンガルーの一家も、滅亡に陥いる大ピンチなのであるが……。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社 工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

動物園ニュース

§ 出産シーズン続く。

6月22日、カリフォルニアアシカに3頭目の赤ん坊が生まれました。1年に3頭の赤ん坊が生まれたのは昭和50年以来5年振りですので係員一同、喜びもひとしおです。この子も前に産まれた2頭同様、大変元気で生まれた1週間後にはお母さんと一緒に大変上手に泳げるようになりました。御来園の際にはこの可愛いチビツトリオを是非御覧下さい。



6月26日にニホンジカにまた1頭雌の子が生まれました。しかし、他の個体がこの子を可愛がりすぎ、なめすぎた為、とうとう肛門部に大きな穴が開き、このままでは大変危険な状態になってしまいました。そこで動物病院に入院させ、獣医さんによって手術が行われました。

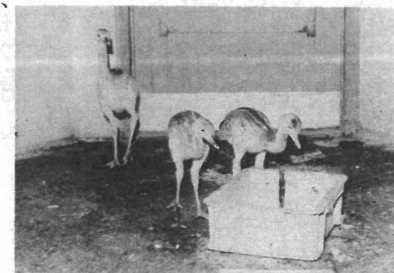


結果は大成功で、獣医さん達に人工のミルクをもらいながら毎日病院の中を駆け廻っています。

6月26日、キングペンギンが産卵しました。キングペンギンの産卵は当園では7年振り、フ化予定日の8月21日が大変楽しみです。

7月8日には北園のカモシカ園内でハナジカにオスの赤ん坊が生まれました。

7月9日、レアが1羽昨年が続いてかえりました。そして18日、20日にも1羽ずつかえり合計3羽になりました。

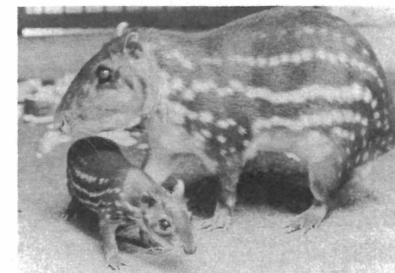


それにまだかえりそうな卵が4卵もありますから、うまくすると今年はレアのあたり年になるかも知れません。

また昨年かえったレアを両親と同居させましたが

この方もうまく行っています。

7月25日、パカに赤ん坊がうまれました。パカは天王寺以外では秋田の大森山動物園に最近1番が入園しただけという大変珍しい動物です。父親は8年前に入園したもので、母親は昨年入園しました。同居させた初めは大変折り合いが悪く、メスは背中が大ケガをし、今年1月やっと同居に成功した位でしたのでまさか繁殖するとは思っていませんでしたので、担当者も驚いたり喜んだり。親も可愛い動物なのですが、さすがに子供は親より一層の可愛らしさがあります。御来園の際にはアシカの赤ちゃん同様このパカ



の赤ちゃんも是非御覧下さい。

§ 第6回サマースクール開講

7月22日から7月31日まで、小学生4、5、6年生を対象としたサマースクールが開講されました。多数の応募



がありましたが、その中から270名が抽選により選ばれました。各学年ごと3組に別れ、各組とも第1、2日目は天王寺動物園で、動物の観察や飼育の勉強などをして、第3日目は大阪市立自然史博物館で動物の骨格を調べたりしました。また、この9日間のサマースクールのお手伝いにのべ約240名のボランティアの方々が御協力下さいました。

休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。11月までの休園日は下記の通りです。

8月18日(月)、9月16日(火)、10月20日(月)。

開演時間は9時半〜5時で、4時に切符売止めになります。

なきごえ 昭和55年8月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

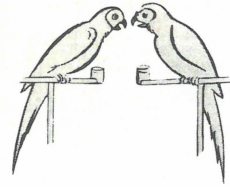
第16巻第8号(通巻180号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

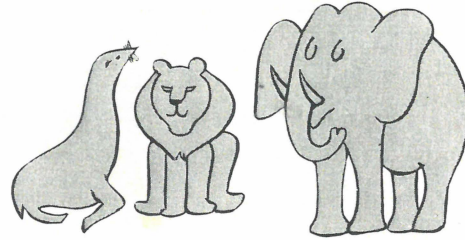
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・中川 哲男・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・藤谷 文彦・仲谷 登